YMCA キャンプ 100 年・神戸 YMCA 余島キャンプ 70 周年記念事業

YYY 余島シニアキャンプ 開催報告書

YYY 余島シニアキャンプ実行委員会　委員長　大野 勉

１．キャンプ概要

１）目的　：「神と出会い、人と交わろう」・「明日のリーダーを今日創ろう」・「時代を超えてつながりあおう」
上記３つをコンセプトとして、余島の雄大な自然の中で世代を越えて人々がつながることの大切さを体感すること、また、自然との関わり方をともに学び、時間を共有し、語り合うことも目的とした。

２）開催地　：公益財団法人神戸ＹＭＣＡ　余島野外活動センター・余島キャンプ場

３）日程　：2021 年 9 月 18 日（土）- 9 月 20 日（月）　2 泊 3 日

４）参加者　：25 名（東西日本区ワイズメン/ウィメン、余島リーダー会 OB・OG、余島を愛する方々）

５）旅程：

日時		アクティビティ
9/18(土) 1 日目	午後	・入島後チェックイン、オリエンテーション ・阪田キャンプディレクターによる講話 ●テーマ「社会という荒野を仲間と生きるためにキャンプが果たす役割」
	夜	・南の浜にて BBQ、キャンプファイヤー
9/19(日) 2 日目	午前	・聖日礼拝（中道基夫先生） ・特別プログラム：カヌートリップ（インストラクター：森本崇資氏）
	午後	・プログラム（フリー） ・特別講演　～地球環境や SDGs につて考える～ ●テーマ「今そこにある地球の危機　持続可能な未来のために私たちがすべきこと」（講師：日比保史氏）
	夜	・プログラム（フリー）
9/20(月) 3 日目	午前	・記念植樹
	午後	離島（坂手港までの移動中に「道の駅」にてショッピング）

６）特別講師

＊１．森本　崇資氏　　三田野外活動センター　所長

カナダ・オンタリオ州にあるキャンプ場 CAMP TAWINGO でキャンプやカヌーの素晴らしさと出会い今に至る 2012 年より余島キャンプ場の達人キャンプやカヌートリップトレーニング等に参加。

CAMP TAWINGO DIRECTOR　／　余島のスペシャリスト　カヌーの達人

＊２．日比　保史氏　　一般社団法人 CI ジャパン　代表理事

野村総合研究所、国連開発計画(UNDP)を経て、2003 年 4 月より現職。2010 年より CI 本部バイスプレジデントを兼務。自然環境の保全を通じた持続可能な社会づくりを目指し、国際機関、政府、企業等との パートナーシップ構築に取り組む。特に途上国における貧困削減と生物多様性保全の両立、自然保護を基盤とする気候変動対策、サステナブルな生産と消費のあり方などを専門とする。

７）備考　：当該キャンプは「公益財団法人神戸 YMCA キャンピングサービスセンター新型コロナウイルス感染症流行時における宿泊を伴うプログラム参加者ガイドライン（レベル 2.5）」に準じて開催した。

2．プログラム報告

●台風 14 号の列島横断と重なり、当初予定していた神戸港発のジャンボフェリーが欠航となるなど予定変更を余儀なくされた。（台風のため 1 名の参加者と 1 名のスタッフがキャンセルとなった）参加者は急遽交通手段の変更、移動時間を遅らせるなどの対応を迫られたが、大きな混乱もなく無事夕方までに全員が入島し、ほぼ予定通りプログラムをスタートする事が出来た。

●今回は多くのワイズメン/ウィメン、及び余島リーダー会 OBOG が参加しており、初顔合わせのメンバーもいたことから、入島後にオリエンテーションを開催。本キャンプの 3 つのコンセプトを目的に自己紹介を行い 2 日 3 日のキャンプをスタートさせた。

↑往路の風景 3 枚（姫路港経由等で急遽往路を変更するも出航時には台風一過で晴天に恵まれる）

↑晴天の余島に到着　　↑大野実行委員長からの挨拶　　↑現役リーダー含めてのオリエンテーション

●今回は 3 つの特別プログラムを企画。余島／野外活動／自然について直接触れ・感じ・考える時間を持った。

◉阪田ディレクターによる講演：「社会という荒野を仲間と生きるためにキャンプが果たす役割」

阪田ディレクターの実施する社会人講座の参加者も JOIN して行われた。冒頭、特に若い世代にとって現代日本社会の状況は希望が見いだせない状況にあること、その原因として「力の継承」が上手く行われておらず、暗い未来を立ち向かうことができないという課題提起がなされた。力の継承が上手く働くためには、感情を伴う体験の共有が必要で、キャンプはそのような体験を得る場の一つである。しかし、そのキャンプでさえもシステム化が進み、漫然とプログラムを実施するだけでは、その役割を果たすことが出来ない現状が説明された。そこで、近年の余島キャンプでは、キャンプ場を出て体験を共有する機会を意識的に増やして、力の継承を体験し得るプログラムに取り組んでいることが紹介された。

翌日のカヌートリップは、まさしく阪田ディレクターの講演のとおり、余島を飛び出してトリップを行う体験となり大変印象的であった。

◉森本崇資達人のカヌートリップ

台風一過の秋晴れの下、全員が参加してカヌートリップへ。カヌー未経験者もいたが、講師森本さん流の事前座学「僕は子ども達にも何も教えないよ、そしたら皆で相談したり、考え始めたりするから・・」はわずか 10 分ほどで終了。カヌー未経験者もいたが 10 艇ほどに分かれて 10 時すぎに出航。まずは西回りで余島一周へ。皆さん各々のペースで順調に進み無事一周を完了。森本達人の次なる指示は「世界一狭い土渕海峡」。各艇揃って海峡を目指して漕ぎ出した。そして無事土渕海峡へ到達し記念撮影。そこから小豆島の浜辺に立ち寄りランチタイム。しばし英気を養ってから最後は中余島横断し帰路へ。干潮で姿を現したエンジェルロードを横断して、全艇無事帰還となった。心地よい疲れと目標を達成した充実感を味わい、余島の自然を大満喫したトリップとなった。

↑象ケ鼻周りで余島を一周

↑土渕海峡で全艇揃っての記念撮影

↑双子浦の海岸でランチ&記念撮影

◉日比保史氏による SDGs 特別講演：「今そこにある地球の危機　持続可能な未来のために私たちがすべきこと」

キャンプ 2 日目の夕刻には、もう 1 つの特別企画となる日比保史氏による SDGs を考える特別講演を実施。第一人者である日比氏より、世界各国で発生している気候変動についての現状の説明を受けた。次に、世界と日本の SDGs についての意識の差・アクションの遅さなどについても説明があった。既に地球環境の崩壊は進んでおり、それを止める事は出来ない。10 年後にどのような世界になっているのかを考え、各人が出来る事に取り組むことでそのスピードに変化をもたらすことはできることを認識した。余島の自然に囲まれながら真剣に環境に向き合う時間となった。

●余島キャンプと言えば、キャンプソング＆キャンプファイヤー。初日の夕食にはワークキャンプに参加している現役リーダー達も合流。広いスペースの南の浜で、星空の下、BBQ に舌鼓を打った。夕食後にはそのままキャンプファイヤーへ。世代・時代を超えて受け継がれているキャンプソングやゲーム、逆に時代とともに新たに追加されているそれらを OB と現役が互いに実演し互いに楽しんだ。今回のシニアキャンプの 1 つの目的である「時代を超えてつながろう」を共に体感できる余島らしい良いイベントとなった。

●9 月 19 日(日) 中道基夫先生による聖日礼拝（詩編 10 編）

詩編 10 編には、現在の自分のついていない人生を嘆くことば、そして自分に害をおよぼす悪人への不安のことばが綴られています。しかし、それが最後には希望のことばへと変えられています。では、なにが希望を生み出したのか。それは神がイスラエルを救った出エジプトの記憶です。この解放の記憶を想起することで、未来への希望を生み出しているのです。ここに信仰の力、神秘があります。

余島には 70 年間培ってきた出来事がある。それは日常生活からの出エジプトの経験、解放の経験であったことでしょう。

その余島の経験は聖書の解放の物語に裏打ちされたものです。そして、この聖書の物語と YMCA、余島での経験に対してアーメン（その通りです）と共に唱える仲間がいるということに、その力を伝承してく秘密があります。解放の出来事は、わたしたちのついてないと思える人生でさえ希望へと導いてくれます。【中道基夫先生 寄稿】

●最終日には、今回のシニアキャンプに寄付という形でご参加いただいた方々、余島にかかわる全ての団体と個人への感謝と更なる発展、そして、私たちの出会いの場となり、70 年にわたって私たちを育て繋げ続けてくれた余島が末永く続くことを祈ってオリーブの樹の記念植樹を行った。場所はセンター食堂前にある石碑裏。既に 1 本のオリーブの樹があり、今回植樹した樹と共に将来オリーブの実がなることを楽しみに参加者全員で土入れを行った。

３．参加者コメント

※今回キャンプ参加者から頂いた感想・ご意見については、別添資料をご参照下さい。

４．まとめ

YMCA キャンプ 100 年と余島キャンプ 70 年を記念して、昨年から準備してきたシニアキャンプを 1 年遅れで実施することができた。コロナ禍に加え台風 14 号の接近もあり直前まで開催が危ぶまれたが、参加者や関係者の祈りが神様に届いたのか、なんとか無事開催することができた。また、3 日間を通じて大きなトラブル、怪我人もなく成功裏に終了する事もできた。

「神と出会い、人と交わろう」「明日のリーダーを今日創ろう」「時代を超えてつながりあおう」というコンセプトのもと、余島の雄大な自然の中でシニアのメンバーだけではなく、現役のリーダー達ともコラボレーションすることもでき、世代を越えて様々な背景を持つ人々がつながることの大切さを体感することがきできた。また、今回のキャンプでは各々の分野での専門家を講師に招き、講話やプログラムを開催。それらを通じて、「自然の中での力の受け渡し」について語り合い、深く考え、そして実感し、とても貴重な時間を過ごすことができた。

アウトドア・プログラムでは、カヌー初体験のメンバーもいる中で、余島の対岸にある世界で最も狭い土渕海峡までのカヌートリップを実施。元気満々なシニアパワーを発揮し、一人の脱落者も出すことなく完走することができた。

SDG s をテーマとした環境問題の専門家による講演会では、温暖化による地球環境の厳しい状況を学び、「10 年後の若い世代の人たちのために私たちシニア世代は何が出来るのか？」、を深く考えるきっかけともなった。

私たちシニア世代がキャンパーやリーダーとして余島キャンプに訪れていた頃から社会のシステムや環境も大きく変わり、余島キャンプを持続的に存続させていくための厳しい現状についても認識を新たにすることができた。今回のシニアキャンプを通じて、今後私たちシニア世代がユース世代や余島キャンプのために引き続き出来ることを実行していきたい、という想いをさらに強くして 3 日間のプログラムを終え、余島を後にした。講師の方との対話の中で言われた「あと何年生きますか？」という言葉が強烈に胸に響いた。余島も地球環境も、社会で生きていく上で困難に直面するユース世代の人たち対して、私たちができることを押し付けることなく、手を差し伸べることが必要であることを再認識する事が出来た今回のキャンプは、実り多きキャンプであったと言える。

最後に、今回のシニアキャンプの実現をサポートいただいた、余島キャンプのスタッフや現役リーダーの皆さん、神戸 YMCA の関係者の皆さん、今回の余島キャンプに参加していただいたシニアメンバーの皆さん、そして寄付金にもご協力いただいたワイズメンズや余島 OBOG 会の皆々様には、この場を借りて心より感謝の気持ちを伝えたい。また今回のキャンプで貴重なお話やアウトドア体験を提供していただいた講師の方々にも感謝したい。「ありがとうございました。また余島でお会いしましょう！！」

以上